

# 大洲市6月定例議会

## ～日本共産党 梅木かづこの議会報告 その4～

### 肱川地域の病院確保について

＜梅木市議の質問＞

3月議会で肱川地域の病院確保についてお聞きした際、市長は「福田医院の現在の施設を民間に継承していただくのが最もいい。外から来られる人の一番重要なことは、具体的にどの程度の診療に来てくれるのか、経営が成り立つのか、これに対して市がきちんとした形で補償できるのか、診療環境が十分整っているかなど考えられる。他市町や医療関係者の御意見も聞き、条件を整えて医師募集をしていきたい。医師確保に最大限の努力をしていきたい」と答弁されました。また、長期にわたって地域医療に貢献された福田医院への感謝を表されました。初めに、病院の確保について、現在の進捗状況をお答えください。

＜答弁＞ 地元自治会や関係者の皆様は、民間の医師が福田医院の施設を継承されることを何よりも要望されているため、医師を募集するための手段として、市公式ホームページ内に制作する移住・定住サブサイトにおいて、病院の施設及び診療機器を活用し、地域医療を支えていただける医師募集の掲載をすることとしており、掲載内容の確認作業を終え、今週中にホームページにアップをする予定である。

肱川地域の皆さんは、市長のこの答弁に期待をしつつ、自分たちも何かしたい。市長への応援と、来てくれる医師への歓迎をする気持ちではがきを市長に届けています。現在のはがき署名数を明らかにしてください。また、皆さんが一言を届けられていると思います。主な声をお聞かせください。また、この思いにぜひ答えてほしいと思いますが、いかがですか。

＜答弁＞ 『肱川地域に病院を確保してください』という市長宛ての要望はがきが5月18日から届け始め、6月9日までに届いたはがきの枚数は157枚、要望者の人数は423人。また、要望者の地区別内訳については、旧肱川町内の方が406人、それ以外の方が17人という状況である。  
届いた157枚のはがきのうち、私の一言欄に記載があったのは8枚で、その主なものは、「病院がないとこの数カ月本当に大変でした。」、

「学校、そして高齢者の多い地域にはぜひ必要です。」、「車の運転のできない高齢者がふえています、ぜひ肱川町内に病院を。」、「旧福田医院を老人ホーム施設とはなりませんか」というような内容で、いずれも肱川地域に病院や福祉施設の確保を期待するものであった。  
今後の大洲市にとって、地域医療の確保というのは非常に重要な政策であると思っており、そうした声を受けとめ、市民の皆様が将来にわたり安心して地域医療を受けることができるよう努力を払ってまいりたい。

身近にかかりつけ医を持つことがいわれ、大病院は5,000円の別費用がかかるといわれています。高齢者にとって身近に病院があることこそ安心を生み出します。また、学校、病院、金融機関などあってこそ住める町と言われています。市民の願いに応える対応を今後どのように進めていくおつもりか、お聞きします。

＜答弁＞ 病気になったときや、日ごろの健康に不安を感じたときに相談できるかかりつけ医を持つことは安心を得られ、重要であると認識をしている。かかりつけ医は、患者の健康状態を総合的に把握し、日常的な治療を行うとともに、必要なときには適切な診療医につなぐなど大切な役割があるとされている。

また、安心して生活することができる地域医療を支えていくためには、急性期の患者は病院で速やかに治療を行い、在宅での療養につなげていくことが必要であり、かかりつけ医はその中心的な役割が期待されている。なお、かかりつけ医を選ばれるにあたっては、診療科や交通手段、既往症の経緯など、それぞれの判断で選ばれているものと考えている。

大洲市としても、市民の皆様が安心して生活することができるようかかりつけ医の重要性について、引き続き啓発を行ってまいりたい。

私たちが健康で安心して生活できるように

**肱川地域に病院を確保して下さい。**

これまでに大洲市長へはがき 304枚  
要望者数 776人が届いています。  
(2017.6.30 現在)